第三章　10）ブエノポリス耕地（ブエノポリス駅）

ブエノポリス駅

＊西尾留一、1913 年 10 月、帝国丸、広島県山県郡千代田町出身、ブエノポリス耕地で就労すること 5 ヶ年。(「ブラジル広島県人発展史」138 ページ)

＊川野幹吾、1914 年 5 月、帝国丸、広島県安佐郡可部町大野出身、見川政太郎の構成家族で 14 歳の時渡伯。配耕先はブエノポリス駅クーニャ・ブエノ耕地。駅名は耕主の名を冠したものだ。１農年の就労、その後米作に従事する。(「ブラジル広島県人発展史」100 ページ)

＊高路隆一、1914 年 5 月、帝国丸、広島県安佐郡日浦村出身、ブエノポリス駅付近で就労すること３ヶ年、ドラデンセ線ノーバ・ヨーロッパ駅より６ｋｍの旭植民地に入植する。
(「ブラジル広島県人発展史」108 ページ)

＊柞磨宗一、1917 年、若狭丸、広島県福山市出身。(「ブラジル同胞活躍の姿」112 ページ)

＊河野一夫、1917 年 12 月、若狭丸、広島県安佐郡高陽町落合出身、ブエノポリス耕地に配耕され１年就労。ドラデンセ線ノーバ･ヨーロッパ駅クーニャ耕地でさらに１年就労。(「ブラジル広島県人発展史」104 ページ)

＊池田定作、1917 年 6 月、若狭丸、佐賀県小城郡、配耕１農年就労、てんてんと転じてパラナ州サンタ・マリアナ市にて自動車部品販売店開業。(「ブラジル日系紳士録」768 ページ)

＊教仙勇、1926 年 9 月、神奈川丸、山口県豊浦郡川柵村出身、同駅カンタ・ガーロ耕地に配耕、努力すること 10 ヶ年目にクラビーニョス駅ミリン耕地に農地を 50 町歩購入する。後年この農地を売却してパラナ州トレスバラス移住地コッケロ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」712 ページ)

＊加藤正一、1927 年 9 月、マニラ丸、石川県河北郡出身、義務農年後、さらにプロミッソン市郊外のコーヒー園に就労。後年ブラジリア在住。(「ブラジル日系紳士録」891 ページ)

＊宮田宗一、1927 年 7 月、サントス丸、山口県大津郡出身、配耕後、ベラクルースに移転コーヒー、雑作に従事、さらにマリリア公栄植民地移転。（「ブラジル日系紳士録」595 ページ）

＊菊池武輝、1933 年 3 月、サントス丸、岩手県江刺郡藤里村出身、同駅ブエノポリス耕地に配耕。ノロエステ線に移転、二転後、マリリア市管轄に農地を求めた。永住の地をパラナ州トレスバラス移住地セードロ区に求め落着いた。（「トレスバラス移住地開拓 20 周年史」382 ページ）

＊平野源次郎、1933 年 4 月、アラビア丸、静岡県浜名郡中ノ町出身、ブエノポリス 1 農年就労後、カフェランジアを経てアサイ郡トレスバラス移住地に転住。（同上 608 ページ）